

## こころ まとめ

### 教科書までのあらすじ

- 1 . 私は病気のために両親を失う。  
Kは寺の子に生まれ、医者之家に養子になる。
- 2 . 私は遺産の管理を託していた叔父に裏切られ、極度の人間不信に陥り、遺産を整理して上京する。  
Kは大学で医学を学ばず、哲学を学んだために勘当され、神経衰弱に陥る。
- 3 . 下宿の奥さんとお嬢さんの世話になり、回復する。
- 4 . お嬢さんが好きになる。

### 私とKとお嬢さん

- 5 . Kを下宿に同居させ、お嬢さんに面倒を見てくれるように頼む。
- 6 . Kもお嬢さんが好きなのではないかと疑念を持つ。
  - ・ Kに対する劣等感
  - ・ お嬢さんがKの部屋に二人きりである。
- 7 . 奥さんにお嬢さんをおくれという談判の断行の日を延ばす。
- 8 . Kが私にお嬢さんへの恋を告白する。

### 私の逆襲

- 9 . 上野公園でのやりとり
  - (1) Kが例の事件について口を切る。
  - (2) Kは実際的な方面に進んでいない。
  - (3) Kは私に向かって「どう思う」と言う。
  - (4) 私はKの平生と異なる点を認めた。
  - (5) Kは「弱い人間であるのが恥ずかしい」と言う。
  - (6) 私はすぐ一歩先に出て「退こうと思えば退けるのか」と問う。
  - (7) Kは不意に行き詰まり、「苦しい」と言うだけ。
  - (8) Kは理想と現実の間を彷徨している。
  - (9) 私は「精神的に向上心のないものはばかだ」と言い放つ。
  - (10) Kは「僕はばかだ」と力に乏しい声で答える。
  - (11) Kは「もうその話はやめてくれ」と頼むように言う。
  - (12) 私は「やめるだけの覚悟があるのか」と言う。
  - (13) Kは「覚悟ならないこともない」と独り言のように夢の中の言葉のように言う。

### 私の疑念

- 10 . 上野公園から帰った夜の出来事
  - (1) 古い自分を投げ出して、新しい方角へ走り出さない「覚悟」だと解釈する。
  - (2) 襦事件が起こる。

私の名を呼んで起こす。

間の襦を開けて、Kが立っている。

「もう寝たのか」と普段より落ち着いた声で言った。

翌朝、調子の抜けた頃に「近ごろは熟睡できるのか」と聞いた。

「お嬢さんのこと話すつもりではない」と強い調子で言い切る。
  - (3) Kがお嬢さんに進む「覚悟」だと解釈する。
    - ・ 一般を心得たうえで、例外をとらまえたつもりで得意だった。

## 基本問題

- 5 . お嬢さんがいるのになぜKを下宿させたのか。
- 6 . どんな点で劣等感を持っていたのか。
- 7 . なぜ延ばしていたのか。(a) Kが来る前と(b)来た後ではどう違うか。(c)私の恋愛観を4文字で言つと。(d)そんな自分をなんとに呼んでいるか(2つ)。
- 9 (1) 「例の事件」とは。
- 9 (2) 「実際的な方面」とは。
- 9 (3) 「どう思う」とはどういう意味か。
- 9 (4) 「Kの平生」とはどんな様子か。か
- 9 (5) (a) 「弱い人間」とは。(b) 「迷う」とは。
- 9 (6) 「退く」とは。
- 9 (7) 「不意に行き詰まった」理由は。
- 9 (9) (a) 「向上心」とは。(b) 向上心のために何を犠牲にするのか。(c) この言葉の「復讐以上に残酷な意味」とは。(d) そこにある私の心は。
- 9 (11) 「その話」とは。
- 9 (12) 何を「やめる」のか。
- 10 (1) (a) 「古い自分」とは。(b) 「新しい方角」とは。(c) そのように解釈した根拠は(2つ)。
- 10 (2) その時のKの様子は何のようだったか。
- 10 (3) (a) 「一般」とは。(b) 「例外」とは。(c) どのように考え直したのか。

## 私の決断

- 11 ・私は最後の決断をする。
- 12 ・私は仮病を使って奥さんにお嬢さんをくれと談判する。
- (1) 奥さんの返事
- 驚いた様子を見せない。
- 即座に承知した。
- 本人の意向さえ確かめるに及ばない。本人が不承知のところへ、やるはずがない。
- 何の条件も出さなかった。

## 私の良心

- 13 ・Kにすまないと思う。
- ・倫理的な弱点を持っていた。
- 14 ・お嬢さんとの婚約をKに知らせられない。
- ・正直な道を歩くつもりで、つい足を滑らした
- 15 ・Kは最後の打撃を最も落ち着いた驚きをもって迎えた。
- ・私は策略で勝つても人間としては負けたと思った。

## Kの自殺

- 16 ・この間の晩と同じようにKの部屋との仕切りの襖が開いていた。
- 17 ・Kの自殺を発見した私の反応
- (1) 構立ちに立ちすくむ。
- (2) しまったと思った。
- (3) 遺書を発見して読む。
- (a) 薄志弱行で行く先の望みがないから自殺する。
- (b) お嬢さんの名前だけはない。
- (c) もっと早く死ぬべきだった。
- (4) 世間体の上で助かった。
- (5) みんなの目につくように元通りに置いた。
- (6) 振り返って襖の血潮を見た。

## 私の自殺とKの自殺

- 18 ・Kの自殺の原因について質問を受ける。
- 19 ・お嬢さんと結婚する。
- 20 ・妻とKの墓参りをする。
- 21 ・妻を遠ざけたかった。
- 22 ・ありのままを打ち明けようとするができない。
- 23 ・腕組みをして世の中を眺め出した。
- 24 ・世の中で最も信愛しているたった一人の人間すら、自分を理解していないのかと思うと悲しかった。
- 25 ・一番楽な努力で遂行できるものは自殺より外にない。
- 26 ・明治天皇が崩御し、乃木大将が殉死する。
- 27 ・私が自殺する。

- 11 ・「最後の決断」とは。

- 12 (1) 「驚いた様子を見せなかった」理由は。

- 12 (1) このことからわかるお嬢さんの気持ちは。

- 12 (1) 私はどんな「条件」を予想していたのか。

- 13 ・(a) 「倫理的な弱点」とは。

- 14 ・(a) 知らせる方法とその欠点は。(b) 「正直な道」とは。(c) 「足を滑らす」とは。

- 15 ・「最後の打撃」とは。

- 16 ・「この間の晩」とはいつか。

- 17 (1) 同じ反応をしたのはいつか。

- 17 (2) 「しまった」と思った理由は。

- 17 (3) 読む前に予期したことは。

- 17 (4) 「世間体の上で助かった」と思った理由は。

- 18 ・(a) 「質問」の裏にどんな声を聞いたか。(b) 何を恐れていたか。(c) 新聞記事にはどんな原因が書いてあったか。

- 19 ・私の幸福の黒い影とは。

- 20 ・(a) 妻の気持ちは。(b) 私の気持ちは。

- 21 ・「妻を遠ざけたかった」理由は。

- 22 ・「打ち明けられない」理由は。

- 23 ・そういう生活について、(a) 妻の観察は。(b) 動かなくなった原因の主なものは。(c) 私が自分に愛想をつかした理由は。

- 24 ・この「悲しみ」から疑い出したKの自殺の原因は。

- 25 ・(a) このことと重なるKの遺書も言葉は。(b) 私が自殺しなかった理由は。

- 26 ・「明治天皇の崩御」でどんな気がしたか。

- 27 ・(a) 「私の自殺」の理由は。(b) 妻への配慮は。(c) 「明治の精神」とは。